

取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組21 安心して暮らせるまちづくり ～持続可能な住宅地モデルプロジェクト等～	
②対応する目標・課題	住み慣れた身近な地域において、子どもから高齢者までの全世代の「つながり」を実感できる市民の安心生活の実現／郊外住宅地での暮らしの快適さから横浜都心の魅力・利便性が一体的に享受できる、コンパクトなまちの形成	
③対応する評価指標・目標値	■評価指標：平成22年度横浜市民意識調査質問項目 現在の住まい環境の「近所づきあいのしやすさ」を「よい」（近所づきあいがしやすいと感じている人の割合）	■目標値：11.5%（平成22年度） → 15%（平成28年度）
	■評価指標：平成22年度横浜市民意識調査質問項目 「現在の社会について高齢者の社会とのつながり」を満足していると感じている人の割合	■目標値：5%（平成22年度） → 8%（平成28年度）
	■評価指標：持続可能な住宅地の仕組みや地域再生の横浜型モデルの構築	■目標値：0地区（平成23年度） → 3地区程度（平成28年度）
④取組内容	住み慣れた身近な地域で、誰もが安心して暮らし続けられるように、生活圏の拠点となる駅周辺等に、周辺住民の生活を支えるために必要な機能を集積し、郊外の住宅地の住環境を維持し拠点駅との交通を確保するなど、市民生活を支えるコンパクトな住宅地の形成を進める。また、高齢化や省エネ、災害対策など複合化した地域課題の解決に向けて、民間活力を導入した取組を中心として、地域特性を踏まえた「超高齢化や環境に配慮した持続可能な住宅地モデルの構築」を進める。 具体的には、①モデルとなるエリアをいくつか選定し、それぞれの地域特性を踏まえて、課題や熟度に応じたモデル検討やプロジェクト体制を段階的に構築し、その地域にかかわるステークホルダーとともに地域の将来像を描きながら取り組みを進める。特に、民間事業者が参画する取組とすることを意識し、民間の力を活かして、大都市圏の既存住宅地における、持続可能な仕組みや、地域再生のモデルづくりをめざす。 また、②住民主体の地域課題解決に向けた取組として、自治会町内会をはじめ、様々な主体が連携・協働しながら、課題解決に取り組み、魅力ある暮らしやすい地域をつくるための支援を行う。 ①、②について、当初は個別のプロジェクトとして進め、熟度に応じて①、②を連動させたプロジェクトとして、エリアマネジメントの体制を目指す。 また、環境問題や超高齢化への対応等の課題解決を実現する視点から、市内の各区からの提案をもとに、地域の特性に応じた環境未来都市・横浜にふさわしい取組を推進する。	
⑤エリア	ア 持続可能な住宅地モデルプロジェクト (ア) 大規模団地再生検討プロジェクト ① 緑区十日市場町周辺地域 ② 磯子区洋光台周辺地区 (イ) 鉄道沿線まちづくりプロジェクト ① 東急田園都市線沿線（たまプラーザ駅北側地区） ② 相鉄いずみ野線沿線地域 イ コンパクトなまちづくり検討 主に人口減少、少子・高齢化が進展しつつある市上上記地域ほか ウ 元気な地域づくり推進事業 横浜市内18区 エ くぬぎ台小学校の跡地利用を契機とした地域活性化プロジェクト 保土ヶ谷区川島町周辺地域 オ 地域の観光資源や既存の文化的催事の有効活用による魅力発信 鶴見駅、旧東海道周辺 カ 金沢区における環境未来都市づくり ～社会経済システムイノベーションの実践～ 金沢区内 キ 郊外部の団地における日常生活を健康で豊かにするためのモデル事業 緑区山下地区 ク セーフコミュニティ事業 栄区全域 ケ 超高齢社会における地域による見守り支援サービスの検証 磯子区上中里団地 コ 栄区東部郊外住宅地の持続可能な魅力あるまちづくり事業 栄区上郷東地区住宅地 サ 「ほかほかプラザ」を拠点とした阿久和南部地域の支えあい推進事業 瀬谷区阿久和南部地区	
⑥主体	ア 持続可能な住宅地モデルプロジェクト (ア) 大規模団地再生検討プロジェクト ① 緑区十日市場町周辺地域 民間事業者、公的団体(市住宅供給公社、UR都市機構等)、地域住民組織、横浜市等 ② 磯子区洋光台周辺地区 UR都市機構、洋光台まちづくり協議会、横浜市等 (イ) 鉄道沿線まちづくりプロジェクト ① 東急田園都市線沿線（たまプラーザ駅北側地区） 東急電鉄、地域住民組織、大学、横浜市等 ② 相鉄いずみ野線沿線地域 相鉄グループ、地域住民組織、民間企業、大学、横浜市等 イ コンパクトなまちづくり検討 横浜市 ウ 元気な地域づくり推進事業 横浜市（各区を中心に）、自治会町内会、地区社会福祉協議会、学校、商店会、民生委員・児童委員、スポーツ推進委員、青少年指導員、NPO、ボランティアグループなど様々な主体 エ くぬぎ台小学校の跡地利用を契機とした地域活性化プロジェクト 地域住民組織、横浜国立大学、横浜市等 オ 地域の観光資源や既存の文化的催事の有効活用による魅力発信 鶴見区民、区民活動団体等 カ 金沢区における環境未来都市づくり ～社会経済システムイノベーションの実践～ 金沢区 キ 郊外部の団地における日常生活を健康で豊かにするためのモデル事業 地域住民組織、緑区等 ク セーフコミュニティ事業 栄区セーフコミュニティ分科会（区役所、区民、関係団体により構成） ケ 超高齢社会における地域による見守り支援サービスの検証 磯子区、地域住民等 コ 栄区東部郊外住宅地の持続可能な魅力あるまちづくり事業 栄区、地域住民、NPO法人等 サ 「ほかほかプラザ」を拠点とした阿久和南部地域の支えあい推進事業 民間事業者、自治会町内会、地区社会福祉協議会、瀬谷区社会福祉協議会、横浜隼人高校、瀬谷区等	

⑦活用した国等の制度 ア 環境未来都市先導的モデル事業費補助金(内閣府)(平成24年度)：補助金				
⑧地域の関与 ア 持続可能な住宅地モデルプロジェクト 今後、プロジェクトの進捗よくにあわせて、地域主体の取組や、民間事業者による取組が進めやすいよう工夫する。 ウ 元気な地域づくり推進事業 地域が連携して行う課題解決の取組への補助(地域運営補助金) エ くぬぎ台小学校の跡地利用を契機とした地域活性化プロジェクト 円卓会議(関係者が対等な立場でまちづくりを検討する場)を開催するとともに、4つの活動部会を中心にアクションプランに基づく活動を本格的に進めていく。 オ 地域の観光資源や既存の文化的催事の有効活用による魅力発信 地元の意向を確認しながら、地域の観光資源の有効活用について検討。 既存の文化的催事は企画運営とも地域主体で行われている。 カ 金沢区における環境未来都市づくり～社会経済システムイノベーションの実践～ 区内2大学、関係団体等 キ 郊外部の団地における日常生活を健康で豊かにするためのモデル事業 地域が連携して行う課題解決に向けた取り組みへのサポート ク セーフコミュニティ事業 地域が主体となって継続的に取り組む事業 ケ 超高齢社会における地域による見守り支援サービスの検証 地域住民が相互に支えあう体制を確立する。 コ 栄区東部郊外住宅地の持続可能な魅力あるまちづくり事業 地域の人と協働でまちづくりを推進する。 サ 「ほかほかプラザ」を拠点とした阿久和南部地域の支えあい推進事業 地域における支え合いや生活支援を推進する。				
⑨スケジュール				
23年度	ア(ア)①: 【緑区十日市場町周辺地域】	ア(ア)②: 【磯子区洋光台周辺地区】	ア(イ)①: 【東急田園都市線沿線】	ア(イ)②: 【相鉄いずみ野線沿線地域】
24年度	・事業化に向けた検討調査等	・地域住民、民間事業者、行政等を入れた協議により、取組をスタートさせる。	・住民、民間事業者、大学、行政等で協議し、取組内容を検討する。 ・モデル地区アンケート調査実施 ・各種検討部会開催	
25年度	・企業等と対話するサウンディング調査の実施、公募要項の策定	・空き店舗を活用して、取組試行	・基本構想策定 ・地域住民、民間事業者、大学、行政等が連携し、具体的取組を推進	・地域住民、民間事業者、行政等を入れた協議を開始し、取組をスタートさせる。
26年度	・事業者公募の実施			
27年度	・地区計画変更手続き			
28年度				
29年度以降	・工事着手			
23年度	ウ:【元気な地域づくり推進事業】 地域の様々な主体間の連携促進等 全区実施		エ:【くぬぎ台小学校の跡地利用を契機とした 地域活性化プロジェクト】	
24年度			事業化に向けた検討調査等	
25年度			地域、行政、事業者等を交えた3者による検討会の実施 (地域による学校施設の跡地利用検討案のまとめ、 中長期的アクションプランの策定等)	
26年度			・地域の検討案を踏まえた学校施設の跡地利用方針の調整、整備に向けた対応 ・アクションプランに基づく、地域資源の活用及び地域主体の活性化策等の実施	
27年度				
28年度				
29年度以降				
23年度	オ:【地域の観光資源や既存の文化的催事の 有効活用による魅力発信】		カ:【金沢区における環境未来都市づくり ～社会経済システムイノベーションの実践～】	
24年度				
25年度				
26年度	地域と連携して、鶴見区の施設・文化財を利用した新たな 夜景の創造を試みるアートイベントを実施		2つの協働の運営システムの構築を図りつつ、社会活性化モデル ケースを実践	
27年度	・地域の観光資源の魅力づくりについて地元と調整 ・既存の文化的な催事の支援		2つの協働の運営システムを活かし、社会活性化モデルケース を実践・検証し、発展	
28年度	・地域の観光資源の魅力づくりについて地元と調整 ・既存の文化的な催事の支援		2つの協働の運営システムを活かし、社会活性化モデルケース を実践・検証し、発展	
29年度以降	・地域の観光資源の魅力づくりについて地元と調整 ・既存の文化的な催事の支援		持続可能なシステムの構築	

23年度	キ:【郊外部の団地における日常生活を健康で豊かにするためのモデル事業】	ク:【セーフコミュニティ事業】
24年度		
25年度		
26年度	モデル事業実施のための検討・調整 モデル事業の実施	・関係データの収集 ・関係データのGIS化 ・データ分析・活用
27年度	モデル事業の実施	・関係データの収集 ・関係データのGIS化 ・データ分析・活用
28年度	モデル事業の実施 実施結果の検証	・関係データの収集 ・関係データのGIS化 ・データ分析・活用
29年度以降	他地区での実施	検討中
23年度	ケ:【超高齢社会における地域による見守り支援サービスの検証】	コ:【菜区東部郊外住宅地の持続可能な魅力あるまちづくり事業】
24年度		
25年度		
26年度		
27年度	地域課題に対応した支援サービスシステムの検討・設計・試験導入	・まちづくり協議会開催 ・課題の抽出・分析 ・地域資源活用型まちづくりの検討
28年度	試験導入システムの効果検証、モデル地区への全体導入	・個別テーマの検討 ・上郷東地区まちづくりビジョン策定
29年度以降	検討中	検討中
23年度	サ:【「ほかほかプラザ」を拠点とした阿久和南部地域の支えあい推進事業】	
24年度		
25年度		
26年度		
27年度	事業の実施 (学習支援事業、買物支援事業、その他交流事業)	
28年度	事業の実施 (学習支援事業、買物支援事業、その他交流事業)	
29年度以降	検討中	
⑩他の取組との連携 取組名:身近なつながり・支え合いの仕組みづくり～よこはま多世代・地域交流型住宅の供給促進～ 連携内容:プロジェクトの対象エリアの中に「よこはま多世代・地域交流型住宅」を整備し、そこを拠点に、地域の見守りの仕組みを構築する。 取組名:地域エネルギーマネジメントシステムの構築・普及 連携内容:街区単位のエネルギーマネジメントシステムを構築し、エネルギー融通のルール作り等しながら、エリアマネジメントの仕組みづくりにまで発展させていく。 取組名:農的空間を活用した都市政策 連携内容:農的空間を超高齢化に対応したまちづくりのモデルづくりの一環として活用する。 今後、「低炭素社会の実現」「地域介護・医療連携」「地域交通」「子育て支援」など、他の取組との連携を検討する。		
⑪自立・自律の方針・目標 それぞれのエリアでごとに、多様な主体間をコーディネートしながら取り組みを進め、横浜モデルとなる持続可能な住宅地を支える仕組みを構築していく。		